

News letter

第83号 | 平成30年
10月1日

(一社)日本精神保健看護学会事務局：〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

TEL:03-5389-6254 FAX:03-3368-2822 E-mail:japmhn-post@bunken.co.jp HP:http://www.japmhn.jp

日本精神保健看護学会

第28回学術集会・総会を終えて

第28回学術集会会長 森 真喜子

(国立看護大学校)

平成30年6月23日・24日の2日間、東京都清瀬市の国立看護大学校において開催された日本精神保健看護学会第28回学術集会・総会は、多数の皆様方にご参加いただき、盛会のうちに終了しました。ご参加いただいた会員・非会員の皆様、関係者の皆様のご支援、ご協力に深く感謝し、心より御礼申し上げます。

また、6月18日に発生した大阪北部を震源とする地震により、参加を予定されながら断念された方もおられると伺いました。心よりお見舞い申し上げます。

ご参加いただいた皆様、「共生社会をひらく 精神保健看護の力」というテーマで開催した今回の学術集会は、いかがでしたか。新しい知見が得られたり、新たな出会いに恵まれたり、面白い経験をされたり…何か一つでも思い出に残ることがあれば、大変嬉しく存じます。

このたびの学術集会のプログラムは、精神保健医療福祉に携わる看護職と看護職以外の多様な職種、そして精神障害者当事者が、共生社会の現在と未来について対話することをコンセプトに企画しました。

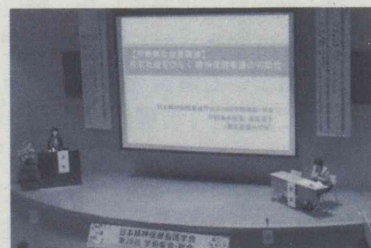
精神保健福祉士と臨床心理士の資格を有する大場義貴氏の教育講演では、認定NPO法人が慢性的な資金不足や精神保健医療福祉の内包する政治的・制度的問題を乗り越え、発展を続けてきた20年間の軌跡が、苦労というよりはむしろ探検の旅であるかのようにユーモアを交えて紹介されました。座長の末安民生氏をはじめとする看護職と、精神保健福祉士、精神障害当事者の皆様にご登壇いただいたシンポジウムは当事者による率直かつ刺激的な問題提起に始まり、議論の成り行きを期待と不安を抱きながら見守りましたが、自由な雰囲気の中で交わされた登壇者と参加者の対話は共生社会そのものであり、リハビリ志向の支援や地域における共生の在り方を考える多くのヒントを受け取ることができました。

そして、会員の皆様が企画されたワークショップや口演・示説による実践活動報告や研究成果発表では、いずれも日々の地道な臨床実践活動や教育・研究の場における精神保健看護の「語る力」・「受ける力」・「つくる力」のもつ可能性が豊かに表現されていました。

この学術集会でご講演、ご発表下さった皆様、本当にありがとうございました。

当日の運営委員やボランティアとして、快く協力を申し出て下さった会員の皆様にも、この場をお借りして、感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

最後に、私が無事に学術集会会長としての役割を務めることができたのも、小林悟子実行委員長、事務作業・運営のリーダーシップをとってくれた松浦佳代さんをはじめとする企画委員会の構成メンバーの一人お一人が、惜しみなく力をお貸し下さったお陰によるものと、心から感謝しております。判断に迷ったり、感情が波立った時にも、この仲間たちが朗らかに発揮してくれた「語る力」・「受ける力」・「つくる力」が、いつでも共に前へと進む力を与えてくれました。どうもありがとうございました。



学術集会に参加して

第28回学術集会運営委員 山路 尚
(国立看護大学校研究課程部)

今まで学術集会に参加したことはあったが、今回初めて運営委員として参加した。前日準備と開催された2日間の運営に携わったが運営する側がこれ程緊張するとは思わなかった。私は第一会場の映写室にて照明と音響を終日担当した。講演を行って下さる先生に失礼の無いように、また多くの聴講者に聴きやすい音量や照明となるように映写室を担当した他の運営委員と共に気を張りながら照明や音響を調節した。途中、映写室内に講演中の音が聞こえなくなるトラブルも生じたが映写室の他の運営委員と協力し乗り越えることができた。

私は前日のリハーサルを行っても緊張したが、当日から参加する運営委員の方もいたがテキパキと仕事をしており、経験による慣れもあるのだろうが、運営マニュアルが丁寧に作られていたことのおかげもあったのだろうと感じた。無事2日間が終わり、企画委員の方々への感謝を感じた。

企画委員、運営委員、学生アルバイト、業者の方とこれほど多くの方により学術集会が運営されていることを知ったので、今後学術集会に参加する時には、その時の運営に感謝をしながら存分に楽しむことを心がけようと思った。

平田 絵美子
(国立看護大学校研究課程部)

平成30年度の日本精神保健看護学会では、運営委員をしながら講演や発表を聴いたりワークショップに参加したりと、とても貴重な経験をさせて頂きました。

この度の学会は私にとって、研究テーマとも関連する精神障がい者と看護師との“距離感”について考え直す機会となりました。

ワークショップ「訪問看護師の暴力に対する危険予知訓練(KYT)の活用」では、机を叩きながら怒っている利用者への単独訪問を想定したロールプレイを行いました。状況によっては無理に訪問を続けようとせずには帰るといった判断も必要だという事は、利用者と一定の距離を保ち、お互いを守るためにも忘れてはいけないと改めて感じました。

シンポジウムでの当事者の語りも非常に印象に残っています。その方は、本年度のテーマが「共生社会をひらく 精神保健看護の力ー語る力 受ける力 つくる力」である事に触れた上で、「放っておいてほしい(時もある)」と仰いました。その言葉を受けて、私は精神科の看護師として、当事者に対して過干渉になっていないか、当事者を信じているか、と自分に問いかけました。そして、訪問看護でのこれまでの関わりを振り返って、利用者を過剰に心配し“距離感”が近づき過ぎていた事に気づきました。

今回得た学びを実践に活かしながら、研究を通して精神障がい者や看護師を支えるための新しい何かをつくりだし、発信していきたいと思っています。

田中 美由紀
(熊本大学医学部附属病院)

平成30年度日本精神保健看護学会学術集会のテーマは、「共生社会をひらく精神保健看護の力ー語る力 受ける力 つくる力」でした。共生社会の中での看護の力ということで、教育講演や特別講演は大変興味深く聞かせて頂きました。特に、共生社会の現在と未来を他職種と精神障害者当事者で語り合う「シンポジウム」は考えさせられる内容でした。近年、施設から地域へということが言われ、日々療養支援という考え方に基づいて看護を行っています。ただ、シンポジウムの中で、当事者の方から「退院の条件が訪問看護になっている」「看護師眼鏡でみないで、患者眼鏡を学んでほしい」「患者としてではなく人として見てほしい」「ほっといてほしい」という言葉を聞き、自分の看護を振り返る機会にもなりました。患者の語りにも耳を傾け、患者眼鏡をしっかりと持ち、語りを聞くだけでなく、専門職として考えていること必要だと思うことを、語り実現していく必要性を痛感しました。そして一方的に本人の支援になっている、自分の支援が最

善のものと考えてしまうことがないように、語り合い、話し合い、共同で意志決定できるといいと感じました。

今回、日本精神保健看護学術集会に参加して、障害の有無にかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らすことを目指す「共生社会」が実現できるように、“語る力、受ける力、つくる力”を自分の力とできるように取り組みたいと思います。学術集会の企画・運営に携われた皆様に感謝申し上げます。

第29回学術集会・総会企画委員 桐山 啓一郎
(朝日大学保健医療学部看護学科)

第28回学術集会・総会ではワークショップの企画と演題発表をさせていただきました。ワークショップでは、「ぎふ精神看護検討会」の活動紹介や精神看護CNSの役割開発についてワールドカフェ形式で検討しました。先輩CNS、役割開発中のCNS、これから大学院を目指される方々などにご参加いただき、たくさん意見交換できました。

演題発表では、精神看護学教員として取り組む倫理教育について発表しました。看護実践現場で応用できる実習中の倫理カンファレンスについて、座長の先生、参加者の皆様からご意見をいただきました。今後の教育活動の励みとなると思います。

本学術集会では他にも、講演、シンポジウムなどに参加しました。印象に残ったのは増川ねてるさんのお話です。初回入院時、看護師から患者としてではなく、小説好きな人としてのかかわりを受けられたという内容でした。看護師として忘れてはならない視点を再確認できました。

私が本学術集会に初めて参加したのは10年ほど前、看護師2年目の時でした。以来、毎年参加しています。振り返ると年を重ねるほどにお話させていただける方が増えています。毎回、全国で実践されている多くの活動に刺激され、次回までの活力をもらう楽しく貴重な時間となっています。

次回は名古屋大会です。第28回のように魅力的な学術集会・総会となりますよう事務局・企画委員で準備中です。皆様のご参加をお待ちしております。

増 満 誠
(福岡県立大学看護学部)

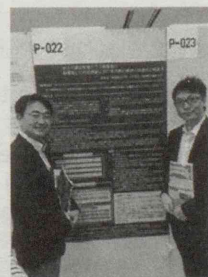
第28回学術集会「共生社会をひらく 精神保健看護の力ー語る力 受ける力 つくる力ー」に参加した。学術集会長森真喜子先生の所属大学である国立看護大学校での開催であった。電車を降り、階段を降りると案内の男性の方が初めての学会関係者との出会いであった。挨拶を交わし、私はバスを利用せずに時折吹く風を感じながら徒歩にて会場に向かった。

実は久しぶりの参加であった。筆頭では1演題、共同では2演題の発表を行った。私のこだわりとして、最近ではポスター発表を好んで行っている。ポスターの前に足を止め、眺めていただくその関心の眼差しが好きだからである。その視線を追いながら、しばらくして対話を始める。研究の説明や質疑応答を通して、新しい視点や課題をもらうことができる。何よりも、その新しい出会いから縁が生まれ、会場のどこかで再会するとさらにネットワークも広がる。

また、学会は、同窓会のような場でもあるように思う。九州にいる私にとって学会に参加することで日本各地の同志に再会し旧交を温める。近況を報告しながらも、未来を語る。たくさんの刺激を受け、エネルギーももらうことができ、明日への活力になる。

さて、今回、会長挨拶でも紹介があった国立ハンセン病資料館にも足を運んだ。授業でも映画「もののけ姫」に出てくる包帯で全身を覆い鉄砲を作っている人々の言葉「その人(エボシさま)はわしらを人として扱ってくださったたったひとりの人だ」を紹介している。九州の園にはいくつか訪れたことがあるが国立の資料館は訪れたことがなかった。一度は訪れたいと思っていたので、また一つ夢を叶えることができた。

最後に学術集会長の思いのひとつ「つくる力」に続き、この学会で「つむぐ力」と「つなぐ力」も感じ得ることができた。次回は、私が臨床看護師時代の6年間を過ごした名古屋での開催である。今から楽しみであり、それまでにさらなる一歩を歩めるよう精進していきたいと決意を新たにしたい。



(写真左:筆者、右:上田智之)

「理事会企画」

理事 畠山 卓也
(駒沢女子大学)

第28回学術集会の理事会企画は「行動制限最小化に関する動向と取り組み」と題し、開催いたしました。本企画では、小林美亜先生（千葉大学附属病院特命教授）、三宅美智先生（岩手医科大学看護学部講師）を講師にお招きし、座長は本会副理事長の森千鶴先生（筑波大学大学院教授）と私（畠山）が担当しました。

精神科医療の中では長らく「行動制限最小化」をスローガンに掲げ取り組まれてきました。しかし、我が国の統計調査（630調査）によると、実際には行動制限は増加しています。また、一般病院においても、転倒防止やチューブの自己抜去予防を目的とした身体抑制の問題が論じられ、抑制に頼らないケアについて関心が高まってきていることから、この企画を開催することとしました。

三宅先生は、630調査の結果や近年取り組まれてきた行動制限に関する研究について触れられるとともに、今後は複数施設における介入研究により、行動制限最小化のためのエビデンスの蓄積が必要であるという示唆をいただきました。座長の一人である私（畠山）は、臨床での行動制限最小化に関する取り組み（スタッフ教育、行動制限に頼らない・話し合う文化の醸成）を紹介させていただきました。最後にご登壇いただいた小林先生には、一般病院における身体抑制に関する認識として、過剰な安全配慮や事故防止、家族の要望により身体抑制の実施が正当化されてしまう現実があることを踏まえ、必要性の判断や代替案の検討を多職種で行い、抑制を引き起こす要因の除去と抑制に頼らないケアの実施に向けた実践の重要性について示唆をいただきました。

先生方のお話を通して、ケアの標準化とエビデンスの構築に向けて、臨床－研究の協働の必要性を実感するとともに、まだまだ看護から発信できるものはたくさんあることを再認識する良い機会になりました。



●●●● 研修会のお知らせ ●●●●

本学会では、以下の研修会を予定しています。申し込み方法や内容の詳細はホームページをご覧ください。

演劇集団Arte e Salute 劇団員との対話

～イタリアの精神保健に関する基調講演とともに～

演 者：演劇集団Arte e Saluteの皆さん

Angelo Fioritti（ポローニャ地域保健連合機構精神保健局 局長）

Ivonne Donegani（ポローニャ地域保健連合機構精神保健局 前局長）

日 時：2018年10月8日（月・祝）14：00～16：00

場 所：愛知県精神医療センター

* 本研修会については、実施の趣旨に賛同して複数の団体とともに共催とするものです。

定時学会総会開催報告

第3期理事会総務委員長 荻野 雅
(武蔵野大学)

2018年6月23日(土)13時より、国立看護大学校講堂にて第28回定時学会総会が開催されました。名誉会員である稲岡文昭先生、池田明子先生、藤野ヤヨイ先生にもご臨席いただき、多くの会員の方々にご参加いただきました。総会での報告事項を報告させていただきます。

1. 2017年度事業報告

各担当理事より昨年度行った事業の報告がありました。

昨年度は第Ⅲ期役員を選出、定款の変更が行われました。主な事業は①6回の理事会開催、代議員会、定時総会の開催、②第27回学術集会の開催、第28回学術集会開催準備、③第26巻1号、2号の学会誌の編集、発刊、④第9回研究助成活動、⑤会員向け研修会の開催、⑥学術連携に関する活動、⑦第79号、80号、81号ニュースレターの発行、その他広報活動などでした。学術連携に関する活動では、診療報酬・介護報酬改定に向けた準備として、うつと糖尿病をテーマとした日本糖尿病看護学会との共同研究を計画し、看護系学会等社会保険連合会の2018年度の研究助成を受けられることになったとの報告がありました。



また昨年度は災害が多く発生した年でもあります。理事会では、発生した災害への対応や災害に関連した会員への支援についても検討されました。

2. 2018年度事業計画

2018年度の主な事業計画として①理事会7回、代議員会1回の開催、②第28回学術集会の開催及び第29回学術集会の開催準備、③第27巻2号、第28巻の学会誌の編集、発刊、④第10回研究助成、⑤研修事業、⑥学術連携に関する活動、⑦第82号、83号、84号ニュースレターの発行、その他広報活動などが報告されました。

第29回学術集会は、名古屋市立大学の香月富士日学術集会長として、2019年6月8日(土)、9日(日)に、愛知県産業労働センター「ウインクあいち」で開催されます。第83号ニュースレターは電子配信をすることが検討されています。理事会では、引き続き災害支援の検討や、委員会規定の見直しなどを含めた将来構想を検討していく予定です。

また、2020年に設立30周年を迎えるにあたって、30周年記念事業プロジェクトを立ち上げる計画が報告されました。



若手研究助成採択と募集について

日本精神保健看護学会では、若手研究者の育成を目的として、研究助成事業を実施しています。2018年度の助成は以下の通りで、第28回学術集会・総会にて紹介されました。

助成者：玉田聡史

研究テーマ：大学生のスマートフォン利用とひきこもり親和性の関連に関する研究

助成額：219,000円

2019年度の研究助成についても、平成30年12月および翌年1月の期間に募集を予定しています。詳しくは、今後学会公式ホームページに掲載します。

第29回学術集会開催のお知らせ

2019年6月に、第29回学術集会が行われる予定です。以下に概要を紹介します。
ご予約に含めるとともに、積極的なご登録をお願いします。

〈概要〉

日本精神保健看護学会第29回学術集会・総会

開催テーマ「当事者・家族・支援者を結び 精神保健看護の理論と実践～私たちは声をきけているか?～」

学術集会会長：香月富士日（名古屋市立大学看護学部）

開催期間：2019年6月8日（土）～9日（日）

開催会場：愛知県産業労働センター「ウインクあいち」（名古屋市）

学術集会URL：<http://japmhn29.yupia.net/index.html>

一般演題・ワークショップ募集期間：2018年11月1日から2019年1月25日まで

事前参加登録期間：2018年11月1日から2019年5月10日まで

主要プログラム（予定）

会長講演「家族ケアの実践とエビデンス」香月富士日（名古屋市立大学看護学部 教授）

特別講演「精神疾患をもつ人を支える包括的ケア」

大島巖氏（日本社会事業大学 教授、地域精神保健福祉機構 COMHBO 代表理事）

教育講演①「WRAPの日本への導入と普及 ～ピアの力を信じて～」坂本明子氏（久留米大学文学部 准教授）

教育講演②「オープンダイアログの臨床現場での活用」

下平美智代氏（特定非営利活動法人リカバリーサポートセンターACTIPS）

教育講演③「身体疾患をもつ方の不安抑うつへのケアと精神疾患をもつ方ががんになったときのケア」

明智龍男氏（名古屋市立大学大学院医学研究科 教授）

市民公開講座「マインドフルネスと臨床瞑想法」

大下大圓氏（飛騨千光寺 住職/日本スピリチュアルケア学会 理事）

ニュースレター原稿募集

学会では、学会員の主催する精神看護関連の活動を支援し、また、より広く交流を図れるよう、ニュースレターに掲載する原稿を広く募集しております。

皆様が主催される様々な精神看護関連の活動について、ニュースレターでの広報をご希望の際には、その活動内容、主催者（お名前とご所属）、開催場所・日時、参加方法、連絡先に関する原稿をお寄せください。

また、現在の精神保健医療や看護に関するご意見や問題提起、あるいは学会員の方々と共有したい情報などもお寄せいただければ幸いです。広報委員会で検討させていただきます。ニュースレターに掲載したいと考えています。皆様からのお原稿をお待ちしております。

*News
letter*

編集後記

▼第28回学術集会を終え、今回のニュースレターは森学術集会長から寄稿いただいております。また学術集会開催記、参加記等そして学術集会の写真を掲載させていただきました。

今回の83号は電子配布となります。今後ともよろしく願いいたします。（高谷）

▼今号も多くの方に記事をいただき感謝です。
次号は年内の発行を予定しています。（安保）

広報委員会 広報委員長：安保寛明（山形県立保健医療大学）

広報委員：甘佐京子、牧野耕次（以上滋賀県立大学）、小山達也（東京女子医科大学）、

松枝美智子（福岡県立大学）、佐藤大輔、高谷 新（以上山形さくら町病院）

（お問い合わせ先）メールアドレス：hambo@yachts.ac.jp TEL：023-686-6735